



マルホ株式会社の「子守唄—いのち—」像



地下鉄御堂筋線中津駅から徒歩すぐ、大淀警察署の隣に「マルホ株式会社」の本社ビルがあります。マルホ株式会社と聞いてもピンとこない方でも、保湿のための塗り薬「ヒルドイド」は見聞きしたことがあるのでは？ マルホ株式会社は、「ヒルドイド」に代表される皮膚疾患のための医療用医薬品の製薬会社です。市販薬の取り扱いがないこともあり、メディアに出ることはほとんどありませんが、塗り薬の生産量は日本一を誇ります。そのマルホ株式会社の本社ビルの玄関口に、女の子の像があります。「子守唄—いのち—」像。この像の女の子は、頭に手拭いを巻き、幼子を背負っています。右手には風車を持ち、背中の幼子をあやしているのです。はんでんを着足元には草履。なんだか、意味深長な像なのです。会社の玄関口にある像がなぜ、このような幼子を背負った女の子の像で、「子守唄—いのち—」なのでしょう？ 会社の事業とどう関わっているのでしょうか？

小学校1〜2年生からの姉の仕事でした。小さな肩に幼子を背負って、「ねんねこ半纏」でくるみ、あやしている姿は、地方の民謡にもよくうたわれています。風車であやす少女の表情に、命の大切さと、貧しさに負けない明るさを込めて表現しました」とのこと。「命の大切さ」を表したこの像は、そのまま会社の思いを伝える像ということでした。この像のほかにも、社内にはいろいろなモニユメントがあるそうで、彦根工場には、ベルリンの壁の一部やベルリンの熊があつたりと、長年取引のあるドイツのドクトル・カーデ社との深い関わりを彷彿とさせるものもあるのだとか。それでも、創業者の像はどこにもないそう。「会社の歴史や創業者のこと、先達の思いは、社史に残しています」「1959年(昭和34年)から、社内報を発行していますが、長いあいだ、週刊で出していました」というコメントからも、創業者の思いや考えは、言葉にして伝える風土があるのでしよう。1997年(平成9年)にこの像が建てられたときにも、もちろん社内報で取り上げられました。さらに、2007年(平成19年)に製作者の中村氏が文化勲章を受章された際にも、あらためて社内報で取り上げられました。そのせいもあってか、社歴の長い人には、愛着のある像なのだそうです。さまざまなキャリアの社員が増えた今でも、変わらずに会社の思いを伝える存在として、この像はあり続けます。個人の像のように直接的ではありませんが、やはり、強い思いが込められた像なのでした。(棚橋真理)

駅探 えきたん

阪急 中津 Hankyu Nakatsu

阪急中津駅と12枚の『さかなっつハイ!』の看板



2005年(平成17年)春まで、阪急中津駅に『トンさかなっつハイ!』の看板広告がスラッと並んでいたことを覚えていませんか？ 正式名称『トンさかなっつハイ!』は神戸市東灘区の東洋ナッツ食品株式会社が製造・販売している人気商品です。

このコラムのインタビュウのために神戸へとかう私の脳裏には、忘れかけた過去が去来していました。「まさか25年来の謎が解ける日が来るとは」。25年前、当時高校生だった私はこの看板を見るたび「さかなっつハイ」と独り言をつぶやく、ちよっと変わった少年でした。きっと「さかなっつハイ!」と『なかつ』を掛けて、中津駅を選んだに違いない。当時の私は、心からそう信じて疑いませんでした。あれから四半世紀、平井少年の疑問を、大人になった平井記者が確かめたい。私はひとり高揚感に浸っていたのでした。

応対していただいた広報の倉内さんは、入社8年目。「私も看板の話は聞いていますが、入社したときにはすでに撤去され、実際に見たことがないんです。今も大阪のお客さんから、あの看板のナッツ屋さんでしょ、とかなりの確率で言われますよ。看板は発売初年の1986年(昭和61年)8月から2005年(平成17年)3月までの20年間出していました。すべての契約期間ではありませんが、端から端まで12枚すべて『さかなっつハイ!』だった時期があり、みなさんの記憶に残っているようですよ。いよいよ、平井少年(当時)の疑問をぶつけるときがやってきました。

そうなんです、語呂はまったく関係ないですね。少し残念。倉内さんは続けます。「オリジナルキャラクタ1をつくらせたり、会社もこの商品にはとても力を入れていました。中津駅の12枚の看板もそれだけ期待が高かったということです。期待されて登場した商品だったんですね。「ナッツ」という食品は、栄養価が高く優れた食品なのに、酒のつまみと思われていました。ファミリ向けとして売り出すため、ミックスマックスに魚を加え、食べきりサイズのポーションパック(小袋)を採用した画期的な商品だったんです。「原材料にサイズを揃えた瀬戸内のカタクチイワシ、丸粒のアーモンド、小粒のピーナッツを使用するなど、素材も厳選しました。また、形も重さもまったく異なる素材が均一に配合されるよう、専用の機械をわざわざつくったんですよ。おかげさまで2015年(平成27年)に発売30周年を迎え、当社を代表する商品になりました」。

ありがとうございました。平井少年(当時)も満足しました。東洋ナッツ食品の敷地内にはアーモンドの木がたくさん植えられていて、春には桜に似た美しい花が咲くそうです。多くの人が花見に訪れるアーモンドフェスティバルは、神戸っ子に愛されているそうです。(平井裕二)